

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 26 年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

ゾウを通してアジアとのつながりを知る～ラオスとの国際共同保全プロジェクト～

2. 提案機関名

京都市動物園

3. 提案企画の概要

地球規模で環境破壊が進む現代において、動物園の役割は、野生動物の種の保存であり、そのことを市民に伝える環境教育のための機関となることだ。今や、野生動物の多くが絶滅の危機に直面している。動物園には、飼育下で野生動物を計画的にきちんと繁殖させ、種として保存するとともに、本来の生息地に還元していくことが求められている。京都市動物園では、2013年にラオス人民民主共和国と「ゾウの繁殖プロジェクト」を進める覚書を交わした。その活動の一環として、動物園を「野生への窓」として、ラオスという国を紹介し、そこで暮らすゾウと人間との関係について正しい知識を広く市民と共有するための公開講座を開催する。

4. 企画の特徴

欧米の動物園と比べると、日本の動物園では生息地と連動した種の保全に関する取り組みが少ないのが現状である。今回の企画実施により動物園としての役割をあらためて問い、今後の方向性を示すことにつながり、国内のみならず海外に対しても日本の動物園の存在意義を示すことが出来る。また、本企画は、単発の講演会として行われるものではなく、時期的に前後する京都マラソンや、京都市交響楽団によるコンサートなど、さまざまな企画との相乗効果によって、より高い認識の高まりが期待される。

5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

動物園の果たす多様な役割について、市民が改めて考えるきっかけとなった企画と言える。

実施機関だけでなく、京都大学やラオスの関連機関との協働体制を確立し、ラオス企画展と公開シンポジウムが効果的に連動され、ほぼ目標人数の参加者を得たことは評価できる。

今後、ラオスの象だけにとどまらない野生生物の保護に対する市民の関心を広げる活動に期待したい。

6. 実施者からPR・感想について

動物園の役割は、野生動物の種の保存であり、そのことを市民に伝える環境教育のための機関となることである。また、飼育下で野生動物を計画的にきちんと繁殖させ、種として保存するとともに、本来の生息地に還元していくことが求められている。京都市動物園では、2013年にラオス人民民主共和国と「ゾウの繁殖プロジェクト」を締結し、アジアゾウという種において、求められている役割を実践していくこととした。そして、動物園は「野生への窓」であるという理念に基づき、ラオスという国を紹介し、そこで暮らすゾウと人間との関係について正しい知識を広く市民と共有するための企画を開催した。一つは解説パネルや写真を活用したすべての世代に知ってもらえる企画展示。もう一つは中学生以上を対象にした市民公開講座で、ラオスから講演者を招き、直接参加者に話をしていただいた。これら二つの活動により、小学生以下から御高齢の方まで幅広い世代に御参加いただくことが出来た。今後、アジアゾウを通して、国際的な保全活動に興味・関心を持ってもらえるような活動を今後も進め、その成果を広く来園者へ周知していきながら、ゾウの繁殖プロジェクトの成功につなげていきたい。



[パネルディスカッション]



[シンポジウムにおける講演の様子]

以上